

「防災対応のための南海トラフ沿いの異常な現象に関する 評価基準検討部会」の設置について

1. 趣旨

中央防災会議防災対策実行会議の下に設置された「南海トラフ沿いの異常な現象への防災対応検討ワーキンググループ」(以下 WG)では、南海トラフにおいて M8 程度の地震が発生する「半割れケース」、M7 程度の地震が発生する「一部割れケース」、異常な地殻変動が観測される「ゆっくりすべりケース」について、それぞれのケースでの住民、企業等の防災対応について議論を進めてきた。

この議論の中で、WG で具体的な防災対応を検討するためには、各ケースに該当する現象の評価基準を明確にすることが必要であり、さらに、この基準を予め公表しておくことが今後住民、企業等が実際にこれら防災対応を行う上で重要である、という指摘があった。

以上のことから、9 月 25 日に開催された第 4 回 WG において、これら基準を検討する部会を WG の下に設置することとした。

2. 主な検討課題

- ・「半割れケース」と評価する現象
 - ・「一部割れケース」と評価する現象
 - ・「ゆっくりすべりケース」と評価する現象
- 等

3. 検討体制

各ケースに対する評価を昨年度検討した「南海トラフ沿いの大規模地震の予測可能性に関する調査部会」で座長を務めた WG 山岡委員を座長とし、地震学の専門家で構成(委員名簿参照)。

事務局 内閣府政策統括官(防災担当)、気象庁

4. 検討スケジュール(予定)

新たな防災対応について 12 月頃に一定のとりまとめを行う WG の進捗にあわせ、11 月頃には基本的な基準の考え方を示す予定。

中央防災会議 防災対策実行会議

南海トラフ沿いの異常な現象への防災対応検討ワーキンググループ

防災対応のための南海トラフ沿いの異常な現象に関する評価基準検討部会

委員名簿

座長	やまおか 山岡	こうしゆん 耕春	名古屋大学大学院環境学研究科附属 地震火山研究センター 教授
委員	い で 井出	さとし 哲	東京大学大学院理学系研究科 教授
	う ね 宇根	ひろし 寛	国土地理院地理地殻活動研究センター長
	おぼら 小原	かずしげ 一成	東京大学地震研究所 教授
	しおみ 汐見	かつひこ 勝彦	防災科学技術研究所地震津波防災研究部門 副部門長
	ほり 堀	たかね 高峰	海洋研究開発機構 地震津波海域観測研究開発センター 地震津波予測研究グループ グループリーダー
	まつざわ 松澤	とおる 暢	東北大学大学院理学研究科附属 地震・噴火予知研究観測センター長・教授
	みやざわ 宮澤	まさとし 理稔	京都大学防災研究所 准教授
	よこた 横田	たかし 崇	愛知工業大学地域防災研究センター長・教授

計9名（敬称略）

事務局 内閣府政策統括官（防災担当）、気象庁